

CODE 海外災害救援市民センター
2023年度 事業計画

【1. 海外災害(地)への救援活動事業】

* 2017年度より、継続プロジェクトと終了予定プロジェクトを明確に表記し、各プロジェクトの事業終了予定期の項目を追加した。終了予定期は、一応の目標であるが、その時点で継続の必要性があれば、理事会の協議を経て決定する

項目	番号	プロジェクト名	開始時期	終了予定期
●継続プロジェクト	1	アフガニスタン救援プロジェクト	2003年	2026年度末
	2	中国・四川省地震プロジェクト	2008年	2023年度末
	3	ウクライナ・ロシア避難民支援	2022年	2023年度末
	4	トルコ・シリア地震	2022年	2024年度末

●継続プロジェクト

事業名	1-(1) アフガニスタン救援プロジェクト
実施日時	2003年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブル州ミールバチャコット県
受益対象者の範囲及び予定期数	ミールバチャコット地域の2500世帯。 これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者は550世帯(2022年3月時点)。
実施内容	<p>【2022年度の計画】</p> <p>1. ぶどう畑再生支援(レーズン輸入販売) カウンターパートFさんとの交信が途絶えているから本事業を一時休止とするが、今後も引き続き、Fさんとコンタクトは取り続け、アフガニスタンのタリバン暫定政権の状況を鑑みて再開も検討していく。</p> <p>2. 避難民支援 • Sさんへの食糧支援 MOTTAINEI やさい便でSさんへの食糧提供を継続し、日本での状況を見守っていく。</p> <p>3. アフガニスタンの情報発信 • 村井理事にアフガニスタンの文化や暮らしについて話してもらう機会(寺子屋または、〇〇と国際協力)を作る。</p>
事業の目標と終了予定期	数年前からCODEが輸入するレーズンの総量の目標を1tに定めていたが、2021年8月の政変によってカウンターパートのFさんとの交信が途絶えている。当初の1tという目標を達成することは難しいため、本事業を一時休止とする。

事業名	1-(2) 中国・四川省地震救援プロジェクト/新型コロナウイルス感染症支援
実施日時	2008年5月13日～継続中
実施場所	四川省地震被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	四川省北川県光明村村民約700名および周辺住民 湖北省武漢市民
実施内容	<p>【2023年度の計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四川大地震の被災地、光明村の状況をフォローアップ コロナの状況を見つつ、四川への渡航を再開し、光明村周辺の観光開発(集いの広場や竹林、小川などの整備)の状況、村民委員会による農家樂再開の動きをフォローする。 ・現地NGOとの連携強化 四川大地震以降連携してきたNGO備災センター(新安世紀教育安全科技研究院)と災害時の連携だけでなく、研修などを通じて防災・減災の一助を担う。 新型コロナウイルス感染症で設立した国際アライアンス「IACCR(14の国と地域のNGOや大学などが加盟)」は、コロナの世界的な状況が落ちついてきたことから、感染症に限らず災害全般の対応を視野にいれ継続していく事となった。 2023年4月から2か月間、関西NGO協議会代表理事の三輪敦子さんからの紹介で、中国人留学生、李小雨さん(関西学院大学大学院修士1年)がインターとして活動している。李さんのNGOでの学びと共に四川のNGOとのパイプ役を担ってもらう。 ・日中NGOボラティア研修交流事業の再開 本事業では、これまでに29名(うち4名は国内)の学生など若者が四川の被災地で学ぶ機会を提供してきた。このうち、中山迅一さん(NPO法人まなびと代表)、堀之内(成安)有希さん(CODE理事)、柳瀬彩花さん(2023年3月追手門学院大学卒、現在気仙沼地域おこし協力隊)、原田梨央さん(長崎大学大学院グローバルヘルス研究科、次期青年海外協力隊ベナン隊員)、山内優さん(関西大学4年生)などは、今もCODEの活動に協力、連携していただいている。 2023年度は、コロナ禍など現地の状況を見つつ、2024年春頃に再開し、高校生、大学生などの若者が海外の被災地で直に学ぶ機会を提供する。 <p>◎2023年度の主な動き 4/20 李小雨さん(関西学院大学大学院修士1年生)</p>
事業の目標と終了予定期限	2018年度で四川大地震後に、CODEが伝統木造建築で建設した老年活動センターを活かした「農家樂」の運営を軌道に乗せること、そして現地のNGOとの防災・減災の学び合いに感染症も加えた学び合いの場を積極的に作っていく。また、国際アライアンス「IACCR」

	を通じて、感染症だけでなく災害支援のネットワークを充実させていく。終了予定期は 2023 年度末にしているが、必要であれば理事会の議論を経て再考する。
--	---

事業名	1-(3) ウクライナ・ロシア支援
実施日時	2022 年 2 月 24 日～継続中
実施場所	兵庫県神戸市内
受益対象者の範囲及び予定人数	兵庫県内に避難してきたウクライナ・ロシアの人たち約 100 名
実施内容	<p>2022 年 2 月 24 日、ロシア軍によるウクライナ侵攻が起きた。直後に国外に避難した人は 500 万人を超え、国内でも 700 万人が今も避難生活を強いられ、未だ終息の兆しが見えない中、ウクライナからの避難者の生活も長期化の様相を呈している。</p> <p>よって、2023 年度も引き続き、この「MOTTAINAI やさい便」や「子守りボランティア」などを通じてウクライナ避難者の暮らしに寄り添いつつ、就労支援など避難民のニーズにその都度対応していく。</p> <p>【2023 年度の計画】</p> <p>① 「MOTTAINAI やさい便」</p> <p>スタッフ 2 名と草地としこさんが、週 1 回、車輪 2 台で 19 世帯 40 名に配達しているが、学生ボランティアさんにも子守りボランティアだけでなく、やさい便の活動にも関わり、直接出会う機会を提供していく。</p> <p>② 「子守りボランティア」</p> <p>現在、学生ボランティア 1～2 名が週 2 回、2 世帯で実施しているが、2023 年度も継続して学生ボランティアの活動をサポートしていく。</p> <p>「近畿ろうきん NPO アワード助成金」の優秀賞を受賞し、30 万円を獲得したことでのボランティアの交通費などに充当する。</p> <p>③ 「農業ボランティア」</p> <p>昨年度より村上忠孝さん(元 CODE 理事)のご協力でウクライナ避難者 1 名が、農業を学んでいるが、今年度は隔週でとびまつ中学菜園(神戸市須磨区)で実施し、学生ボランティアも同行する。</p> <p>◎2023 年度の主な動き</p> <p>4/18 とびまつ中学菜園で農業ボランティア(リリアさん、山村、村井理事) ウクライナ避難民食事会を開催(リエラ松永さん、河井さん、頼政さん、 村井理事、吉椿)</p>

	<p>(大分県日田市に避難しているウクライナ人5名と神戸のウクライナ人2名が母国語で交流する機会を提供した)</p> <p>5/7 みろく農園(網干)のイチゴ狩りにウクライナ避難者と参加 (ウクライナ避難者7名、山本健一さん、山村さん、島村さん、立部さん、吉椿)</p> <p>5/8 子守りボランティア勉強会を開催(島村さん、植田さん、樋上さん、那須さん、有田さん、村井理事、山村、吉椿)</p> <p>5/11 MOTTAINAI やさい便に学生ボランティアの参加(樋上さん、李小雨さん、吉椿)</p> <p>5/24 NHK 震災30年企画でウクライナ避難者へヒアリング(吉椿)</p> <p>5/30 神戸学院大学「ボランティア論Ⅱ」*1-(4)、2-(4)にも再掲 第7回「同世代から同世代へ 若者がボランティアをする意義」で講義 (山村さん、植田さん、島村さん、吉椿)</p>
事業の目標と終了予定時期	ウクライナの戦争が長期化の様相を呈していることから、日本に残る方々もしばらくは祖国に戻ることができないことを想定して、終了は2023年度末とする。

事業名	1-(4) トルコ・シリア地震支援
実施日時	2023年2月6日～継続中
実施場所	トルコ共和国ガジアンテプ県、カフラマンマラシュ県、アディヤマン県など
受益対象者の範囲及び予定人数	仮設住宅に居住する被災者約1000人
実施内容	<p>【2023年度の計画】</p> <p>甚大な被害を出したトルコ・シリア地震に復興支援として以下を計画している。</p> <p>資金に関しては、今年度も渡航費は兵庫県のふるさと納税を活用させていただき、現地での支援に関しては、個人・団体の寄付や現在、申請・検討していただいているコープこうべ、神戸新聞厚生事業団、真如苑、ソロプチミスト日本財団などの助成金も活用する予定であるが、中長期的な復興支援を行うためには追加の資金確保を検討しなくてはならない。</p> <p>① 「母と子どものケアセンター」の建設と運営</p> <p>CODEは、現地NGO、ACEVが3か所の仮設住宅村で計画している「母と子どものケアセンター」の建設及び、人件費など運営をサポートしつつ、トルコと日本の学び合いの場としてもセンターを活用する。ACEVが仮設での支援を2年と見ている事から、CODEも2年を目標に支援を実施する。</p> <p>② トルコ・日本ユースボランティア交流</p> <p>被災地で今も活動するトルコの若いボランティアたちと日本の若者たちとの交流を</p>

	<p>通して、学び合う機会を作る。すでに第1回を4/15に開催し、若者を中心に約20名が参加した。今後もテーマを決めて継続的に開催する。</p> <p>③ ガジアンテープのNGOやボランティアのサポート</p> <p>上記、ACEVの現地カウンターパートであるメハメットさん(Active Participants Association)が、ガジアンテープ市内のNGOやボランティアとのネットワークを持っており、この地震で支援活動を行うためにネットワークを組んでいる。現地のNGOやボランティアなどの市民社会をサポートしていく。</p> <p>◎2023年度の主な動き:</p> <p>4/3 MBSラジオ「ネットワーク1.17」打ち合わせ(吉椿)</p> <p>4/6 神戸新聞取材(島村さん)</p> <p>4/9 多文化プラットフォーム「被災地はいまから考える」で講演(吉椿)</p> <p>4/13 NHKワールド取材(吉椿)</p> <p>4/14 MBSラジオ「ネットワーク1.17」に出演(吉椿)</p> <p>4/15 トルコ・シリア地震支援第2次派遣報告会を開催(島村さん、吉椿) トルコ・日本ユースボランティア交流会を開催 (島村さん、植田さん、山村さん、村井理事、吉椿)</p> <p>4/16 アーユス仏教国際協力ネットワーク「トルコ・シリア地震」のヒアリング(吉椿)</p> <p>4/19 生活クラブ生協都市生活「トルコ・シリア地震」のヒアリング (村井理事、吉椿)</p> <p>4/20 連合大阪「第94回大阪地方メーデー」の打ち合わせ(吉椿)</p> <p>4/22 北陸学院大学で「トルコ・シリア地震」支援報告会で報告 (植田さん、島村さん、吉椿)</p> <p>4/23 ワンネススクールで「トルコ・シリア地震」支援報告会で報告 (植田さん、島村さん、吉椿)</p> <p>4/24 兵庫県生協連合会「国際協同組合デー兵庫大会」の打ち合わせ(吉椿)</p> <p>5/1 連合大阪「第94回大阪地方メーデー」で「トルコ・シリア」講演(山村、吉椿) 神戸新聞厚生事業団助成金申請(吉椿)</p> <p>5/2 真如苑ヒアリング(山村、吉椿)</p> <p>5/12-13 レスキューストックヤード「トルコ・シリア地震」支援報告会で報告 (植田さん、吉椿)</p> <p>5/15 日本ホスピス・在宅ケア研究会で「トルコ・シリア地震」支援報告会で報告 (吉椿)</p> <p>5/16 国際協同組合デー兵庫県記念大会パネル展示の打ち合わせ (江見さん、吉椿)</p> <p>5/27-28 カミング KOBEでトルコ・シリア地震のパネル展示(植田さん、山村、吉椿) (被災地NGO協働センターとコラボ)</p>
--	---

	<p>5/30 神戸学院大学「ボランティア論Ⅱ」 *1-(4)、2-(4)にも再掲 第7回「同世代から同世代へ 若者がボランティアをする意義」で講義 (山村さん、植田さん、島村さん、吉椿)</p> <p>6/9 「トルコ・シリア地震」学生勉強会を開催(島村さん、植田さん、山村、 村井理事、吉椿)</p> <p>6/10 防災教育学会で「トルコ・シリア地震」講演(吉椿)</p> <p>6/12 藍那小学校で「トルコ・シリア地震」講演(吉椿)</p> <p>6/18-25 第3次現地派遣</p> <p>7/6-7 静岡県ボランティア協会の「トルコ・シリア地震」講演(吉椿)</p> <p>7/7 国際協同組合デー兵庫県記念大会(兵庫県民会館)で CODEのトルコ・シリア地震支援のパネルを展示(吉椿)</p>
--	---

【2. 人材育成事業】

事業名	2-(1) 事務局体制の充実化
実施日時	2013年11月～継続中
実施場所	CODE事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	数名
実施内容	<p>2022年度前半は、CODE事務局は村井理事、細川さん(会計)と吉椿で運営してきたが、後半10月からは、山村太一さん(2023年3月神戸学院大学卒業)をアルバイトとして、植田隆誠さん(関西学院大学4年生)と島村優希さん(大阪大学4年生)をインターンとして、ウクライナ子守りボランティアだけでなく、トルコ被災地派遣やCODEレターの作成やイベント運営、20周年記念事業に関する業務など事務局業務全般を担っていただいた。</p> <p>2023年は、引き続き学生インターンの人たちの力を借りながら事務局運営をしていくが、長くCODEにかかわってくれた山村太一さん(舞子高校環境防災科-神戸学院大学現代社会学部を2023年3月に卒業)を5月1日よりスタッフとして雇用し、CODE未来基金や事務局業務を担っていただく。</p> <p>また、4月から2か月間、中国の留学生の李小雨さん(関西学院大学大学院修士1年)もインターン生に加わり、中国の事業についても協力していただく。</p>

事業名	2-(2) NGOことはじめ
実施日時	随時
実施場所	CODE事務所
受益対象者の範囲	当NGOスタッフはじめ、学生や若者数十名。

範囲及び予定 人数	
実施内容	現在、ウクライナ支援のトルコ・シリア地震支援などの大きな災害救援事業などもあることから、2023年度は休止する。

事業名	2-(3)「〇〇と国際協力」(*食と国際協力から名称変更)
実施日時	随時
実施場所	CODE事務所
受益対象者の 範囲及び予定 人数	一般
実施内容	2021年度から「〇〇と国際協力」と新たな形で年に1回開催してきたが、2023年度は、C「災害」、「戦争」、「難民」、「気候変動」などCODE未来基金の若者たちの関心のあるテーマを決め、開催する。

事業名	2-(4)CODE未来基金
実施日時	2015年4月1日より
実施場所	-
受益対象者の 範囲及び予定 人数	災害NGOで働く若者、または将来的に災害NGOで働くことをめざす若者、若干名。
実施内容	<p>2023年度は、新スタッフ山村太一や学生インターンの島村優希さん、植田隆誠さんを中心に学生ボランティアさんと共に活動していく。</p> <p>◎2023年度の計画</p> <p>① ウクライナ避難民支援</p> <p>現在、ウクライナの子守りボランティアには、16名の高校生・大学生がかかわっている。その学生たちにも「MOTTAINAIやさい便」などにも加わってもらいながら、ウクライナ避難者に直接会う場や避難者状況を理解する機会を作る。</p> <p>・主な動き</p> <p>5/7 みろく農園(網干)のイチゴ狩りにウクライナ避難者と参加 (ウクライナ避難者7名、山本健一さん、山村さん、島村さん、立部さん、吉椿)</p> <p>5/8 子守りボランティア勉強会を開催(島村さん、植田さん、樋上さん、那須さん、有田さん、村井理事、山村、吉椿)</p> <p>5/11 MOTTAINAIやさい便に学生ボランティアの参加(樋上さん、李小雨さん、吉椿)</p>

	<p>5/30 神戸学院大学「ボランティア論Ⅱ」 *1-(3)、1-(4)にも再掲 第7回「同世代から同世代へ 若者がボランティアをする意義」で講義 (山村さん、植田さん、島村さん、吉椿)</p> <p>② トルコ・シリア地震 これまでに2回の現地派遣に学生インターンに同行してもらった。今後も現地派遣の際に1名の学生または若者に同行いただき、現地で学んでもらう。また、トルコのボランティアの若者たちとの交流も継続して開催する。</p> <p>4/15 トルコ・日本ユースボランティア交流会を開催 (島村さん、植田さん、山村さん、村井理事、吉椿)</p> <p>5/30 神戸学院大学「ボランティア論Ⅱ」 *1-(3)、1-(4)にも再掲 第7回「同世代から同世代へ 若者がボランティアをする意義」で講義 (山村さん、植田さん、島村さん、吉椿)</p> <p>6/9 「トルコ・シリア地震」学生勉強会を開催(島村さん、植田さん、山村、 村井理事、吉椿)</p> <p>③ 若者主体の議論の場の継続 *5-(1)にも再掲 20周年記念事業のプレゼンテーションで若者を中心に議論を重ねてきたことから、2023年度も継続的に振り返りの会など若者主体の議論の場を作り、実践につなげる。 寺子屋セミナーとして、最後のひとりまで、「国際社会」、「若者」などをテーマに若者主体の議論の場を作っていく。また、近畿ろうきんとの共催も検討する。</p>
--	---

【3. 災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	3-(1) 災害情報サイト(CODE World Voice)の運営
実施日時	随時(2002年からの継続事業)
実施場所	SOHO形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて
実施内容	<p>「被災地の市民の暮らしを知ることを通じて、防災や平和への意識向上を図る」ことが目的である。これまでCODEのプロジェクト地をよりよく知らせるため、また、災害時の情報収集のために、随時Reliefweb(UNOCHAが運営する、支援機関のレポート投稿サイト)やその他メディアからの翻訳をCODEウェブサイトで紹介してきた。</p> <p>現在、HPなどの英語翻訳ボランティアは1名、新年度も引き続きボランティアの力を借りながら英語の情報発信(HP、FB)を充実させる。現在、中国人インターンの李小雨さんに、HPの中国四川PJのページを英語にしていただいている。</p>

【4. ネットワーク構築事業】

事業名	4-(1) 《関係機関からの受託事業》 神戸学院大学(社会防災特別講義Ⅱ)
実施日時	9月から1月まで、毎週火曜日第3限
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス、その他オンライン授業
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生約50名
実施内容	<p>① 「現代社会学部」の後期授業「社会防災特別講義Ⅱ」での講師派遣</p> <p>前年度同様に後期(火曜3限、全15回)の講義を吉椿(10)、斎藤容子さん(3)、頼政良太さん(2)を講師としてオムニバス形式で講義を実施する。</p> <p>* 社会防災特別講義Ⅱ 授業計画</p> <p>第1回(9/19)ガイダンス(吉椿)</p> <p>第2回(9/26)CODEについて(吉椿)</p> <p>第3回(10/3)異文化理解と援助(吉椿)</p> <p>第4回(10/10)日本の災害復興(頼政さん)</p> <p>第5回(10/17)寄り添いとつながり(吉椿)</p> <p>第6回(10/24)海外の復興制度(斎藤さん)</p> <p>第7回(10/31)災害フィールドワーク(吉椿)</p> <p>第8回(11/7)災害とSDGs(吉椿)</p> <p>第9回(11/14)災害とジェンダー(斎藤さん)</p> <p>第10回(11/21)平時の地域防災(頼政さん)</p> <p>第11回(11/28)災害と貧困(吉椿)</p> <p>第12回(12/5) 援助の行き届きがたい被災地支援の方策(吉椿)</p> <p>第13回(12/12)海外のコミュニティ防災(斎藤さん)</p> <p>第14回(12/19)若者と国際協力(吉椿)</p> <p>第15回(1/16)まとめ(吉椿)</p>

事業名	4-(2) 《関係機関からの受託事業》 親和女子大学(国際ボランティア論)
実施日時	4月から7月まで、毎週月曜日第2限
実施場所	親和女子大学キャンパス、その他課題提出型授業
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生111名
実施内容	2020年度前期(月曜2限、全15回)より「国際ボランティア論」の講義を受託している。講師は、坂西卓郎さん(PHD協会)(5)、斎藤容子さん(関西学院大学)(4)、吉椿(CODE)(5)の三者で担う。2022年度も同様に行う。

	<p>*【国際ボランティア論】授業計画</p> <p>第1回(4/10)ガイダンス(梁さん)</p> <p>第2回(4/17)国際協力概論(坂西さん)</p> <p>第3回(4/24)ボランティアとは(吉椿)</p> <p>第4回(5/1)開発教育と参加型学習(坂西さん)</p> <p>第5回(5/8)世界と国内の難民(坂西さん)</p> <p>第6回(5/15)国際協力と多文化共生(坂西さん)</p> <p>第7回(5/22)当事者から学ぶ(坂西さん)</p> <p>第8回(5/29)防災と国際協力(斎藤さん)</p> <p>第9回(6/5)緊急支援・復興支援(斎藤さん)</p> <p>第10回(6/12)ジェンダー視点から見える途上国災害(斎藤さん)</p> <p>第11回(6/19)ボランティアから専門家へ(斎藤さん)</p> <p>第12回(6/26)NGOとは(吉椿)</p> <p>第13回(7/3)国際協力と若者(吉椿)</p> <p>第14回(7/10)SDGsと災害(吉椿)</p> <p>第15回(7/24)異文化理解と援助(吉椿)</p>
--	---

事業名	4-(3)《関係機関からの受託事業》 神戸学院大学(ボランティア論Ⅱ)
実施日時	4月から7月まで、毎週火曜日第1限
実施場所	神戸学院大学ポーアイキャンパス、その他オンライン授業
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生 22名
実施内容	<p>2020年前期(火曜1限、全15回)より始まった「ボランティア論Ⅱ」の講義を吉椿が担っている。2022年度は、ゲストスピーカーとして斎藤容子さん(4)にも講義していただく。</p> <p>*【ボランティア論Ⅱ 授業計画】</p> <p>第1回(4/11)ガイダンス(吉椿)</p> <p>第2回(4/18)災害ボランティアについて(吉椿)</p> <p>第3回(4/25)災害ボランティアセンター(吉椿)</p> <p>第4回(5/2)避難所運営とボランティア(斎藤さん)</p> <p>第5回(5/9)避難所ワーク「HUG」(斎藤さん)</p> <p>第6回(5/16)復興支援とボランティア(吉椿)</p> <p>第7回(5/23)足湯ボランティア(吉椿)</p> <p>第8回(5/30)同世代から同世代へ 若者がボランティアをする意義</p> <p>*1-(3)、1-(4)、2-(4)にも再掲</p>

	<p>(植田さん、島村さん、山村さん、吉椿)</p> <p>第9回(6/6) ボランティアとフィールドワーク(吉椿)</p> <p>第10回(6/13) 海外のボランティア①フィリピン(斎藤さん)</p> <p>第11回(6/20) 海外のボランティア②イタリア(斎藤さん)</p> <p>第12回(6/27) 海外のボランティア③中国(吉椿)</p> <p>第13回(7/4) ボランティアと若者と働き方(吉椿)</p> <p>第14回(7/11) 災害とジェンダー(斎藤さん)</p> <p>第15回(7/18) NGOとボランティア(吉椿)</p> <p>*その他、 7/1、7/8 社会貢献学入門(履修者神戸学院大学51名、その他、東北福祉大学、工学院大学)で講義(吉椿)</p>
--	--

事業名	4-(4) 《関係機関からの受託事業》 関西 NGO 協議会
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>① 講師派遣</p> <p>前年度と同様、派遣依頼があれば行う。</p> <p>* 今年度の予定</p> <p>12月 ワンワールドフェスタ for Youth で講義(吉椿)</p> <p>1月 龍谷大学国際特別講義「国際 NGO 論」で講義(吉椿)</p>

事業名	4-(5) 国内のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>① 関西 NGO 協議会の活動への参加</p> <p>今年度も、組織理事として理事会や常任理事会への出席、KANSAI-SDGs市民アジェンダ、ワンワールドフェスタ for Youth などのイベントへの参加を継続し、関西の市民社会や NGO の一員として連携する。その他、ウクライナ情勢に関する情報交換会なども実施する。また、関西 NGO-JICA 協議会の活動も担当する。</p>

	<p>* 2013年度の主な動き</p> <p>4/19 JICA関西と関西NGO-JICA協議会の打ち合わせ(吉椿)</p> <p>4/29 関西NGO協議会理事会に出席(吉椿)</p> <p>5/14 関西NGO協議会総会に出席(島村さん、植田さん、山村、吉椿)</p> <p>12月 ワンワールドフェスタ for Youthでワークショップ、ブース出展(吉椿)</p> <p>② コープこうべとの連携</p> <p>例年通り、総代会への出席、講演会、報告会やイベントなどへの積極的な参加、災害時のハート基金運営委員会との連携も継続する。また、資金調達のワーキンググループとしても、コープこうべとの協力関係を深めていく。2022年度より冬頭佐智子さんがコープこうべからCODE理事として参画していただいている。</p> <p>* 主な動き</p> <p>5/8 コープこうべ冬頭さん、藤原さん、寺尾さんとトルコ・シリア地震支援についての打ち合わせ(村井理事、山村、吉椿)</p> <p>③ 近畿ろうきん</p> <p>2018年度より近畿ろうきんの社会貢献預金「笑顔プラス」の寄付先団体CODEは選出されており、年間約20万円ほどの寄付をいただいている。</p> <p>2019年より毎年、CODE寺子屋の事業として、若者、SDGsや難民などのテーマでセミナー開催に協賛していただいている。2022年度は、トルコ・シリア地震の被災地からオンラインでつなぎ、報告会を開催し、その協賛金をトルコ・シリア地震の寄付にさせていただいた。</p> <p>2023年度も、例年通り、笑顔プラスや寺子屋の開催などで連携していく。</p> <p>また、CODE未来基金のウクライナ子守りボランティア活動に対して、近畿ろうきんのNPOアワード助成金の優秀賞を受賞したことで、学生ボランティアの交通費などに充当する。</p> <p>* 主な動き</p> <p>5/25 近畿ろうきん相生で講演(吉椿)</p> <p>6/7 近畿ろうきん笑顔プラス贈呈式に出席(吉椿)</p> <p>④ 若者の団体とのネットワーク</p> <p>2023年度は、トルコ・シリア地震支援のユース交流などで1.17希望の架け橋やワカモノデカラの方々と、関西NGO-JICA協議会やワンワールドフェスティバルfor Youthなどを通じて他のNGOの学生インターンなどとも連携していく。</p> <p>⑤ JPF、JANIC、JICA関西、人と防災未来センターなどのネットワークとも引き続き災害時の情報交換などで連携していく。</p>
--	---

事業名	4-(6) 海外のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピン / NGO ネットワーク ABAG(セブ市) ・中国 / NGO 備災センター(新安世紀教育安全科技研究院)(四川省成都市) ・国際アライアンス「IACCR」(事務局:中国四川省成都市、14の国と地域) ・ネパール / シエルパ村落開発改善委員会(ソルクンブ郡グデル村シャーレ地区) ・インドネシア / エコ・プラウォトさん(ドゥタ・ワチャナキリスト教大学) (ジョグジャカルタ特別州) ・トルコ/ハサン・デニスさん(ACEV コーディネーター)イスタンブール メハメット・ドグルさん(Active Participants Association)ガジアンテپ <p>上記のネットワークとの関係をそれぞれの事業を通じて深めていく。</p>

【5.「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	5-(1) CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般
実施内容	<p>CODE 寺子屋は、この数年近畿ろうきんの協賛を得て、関西 NGO 協議会と共に、「若者」、「SDGs」、「難民」などをテーマに開催してきた。</p> <p>2023年度は、前年度の20周年記念事業「20年先にあなたは何を伝えますか?」の継続議論として、「最後のひとりまで」、「国際社会」、「若者」をテーマに寺子屋を開催する。</p> <p>また、近畿ろうきんとの共催も引き続き検討する。</p>

【6.「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	6-(1) 賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数

実施内容	<p>●今年度の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・贊助会員の拡大(現在の会員の状況:正会員 28、贊助会員 123 計:151) 昨年度は、トルコ・シリア地震などでより多くの方に CODE や未来基金を知っていただくことをきっかけに丁寧な会員・寄付者管理につとめ、会員・寄付者の拡大をはかる。 ・CODE レター発行・送付 各号約 980 部発送していたが、71 号(4/26)は、トルコ・シリア地震でたくさんの方々に寄付をいただいた事から 1383 部発送した。これによって贊助会員の増加を図る。 ・リーフレットのカラー刷新 広報ワーキングや未来基金の若者たちでリニューアルを進める。 ・SNS を活用した広報 CODE レター発行など従来の紙ベースものに合わせて、学生ボランティアさんの協力でフェイスブック、インスタグラムなどの SNS を積極的に活用していく。学生インター、ボランティアなど未来基金の若者たちにもサポートしていただく。 ・コープこうべや近畿ろうきんのネットワークとの連携 コープこうべや近畿ろうきんの持つ労働組合などのネットワークと連携し、CODE や未来基金の活動をより知っていただく。 ・今年度も「ソーシャルアクションリング」のバナー広告を継続する。 (年 15000 円の広告収入) ・Gochiso というサイトで、登録しているレストランの食事代のポイント還元を寄付に充てる仕組みも活用する。
------	--

事業名	6-(2) 救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>① 他団体からの講師依頼による派遣は以下の通り。</p> <p>* 神戸学院大学、親和女子大学の連続講義は、別途 4-(1)、4-(2)、4-(3)に記載</p> <p>4/9 多文化プラットフォーム「被災地のいまから考える」で講演(吉椿)</p> <p>4/14 MBS ラジオ「ネットワーク 1.17」でトルコ・シリア地震の報告(吉椿)</p> <p>4/22 北陸学院大学で「トルコ・シリア地震」支援報告会で報告 (植田さん、島村さん、吉椿)</p> <p>4/23 ワンネススクールで「トルコ・シリア地震」支援報告会で報告 (植田さん、島村さん、吉椿)</p> <p>5/1 連合大阪「第 94 回大阪地方メーテー」で「トルコ・シリア」講演(吉椿)</p>

	<p>5/12 レスキューストックヤード「トルコ・シリア地震」支援報告会で報告 (植田さん、吉椿)</p> <p>5/15 日本 ホスピス・在宅ケア研究会「トルコ・シリア地震」支援報告会で報告(吉椿)</p> <p>5/25 近畿ろうきん相生支店で講演(吉椿)</p> <p>6/10 防災教育学会で講演(吉椿)</p> <p>6/12 藍那小学校で講演(吉椿)</p> <p>6/28 大阪大学人間科学部で講義(吉椿)</p> <p>7/6-7 静岡ボランティア協会で「トルコ・シリア地震」の報告(吉椿)</p> <p>7/15 兵庫県立大学「防災の国際協力」で講義(吉椿)</p>
--	--

事業名	6-(3) 機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関紙は年3回発行 メーリングリスト、SNSは随時発信(積極的にツイッターの利用を行う)
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	・機関紙は年3回、各号1500部を発行し、約1000部を発送する。 ・インターネットは不特定多数
実施内容	・機関誌: CODEレターは、年3回、4月、7月、12月頃に発行予定。 ・メーリングリスト、FACEBOOK: 逐次、災害救援レポートを発信。 ・ツイッター、インスタグラム: 学生インターン、ボランティアさんによって逐次発信 今年度も、CODEレター、ML、SNSを活用して広報を充実させる。 HPの英語版の更新も進める。

【7. 組織体制に関して】

事業名	7-(1) 組織体制に関して
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>① 役員改選 2023年度は役員改選の年であるが、現役員はすべて留任することを確認した。 (4/28 2023年4月度 CODE 理事会)</p> <p>② 会計顧問業務 2020年度から、税理士の今中一寿さんにご協力いただき、現在の会計のあり方(会</p>

	<p>計の項目の整理)を見直し、認定NPO法人の申請の準備を整えてきた。</p> <p>今中税理士が高齢で引退されるとの事で、後輩の税理士、沖村朝之さん(沖村朝之税理士事務所:神戸市中央区)ご紹介していただき、新年度からは後任の方と契約を結び、会計などサポートしていただく。</p> <p>③ 事務所移転</p> <p>現事務所の家主の意向により 2023年末までに事務所を移転しなくてはならなくなつた。現在、同居している被災地 NGO 協働センタースタッフと共に今後について協議しており、CODE 事務局や村井理事、西海理事、冬頭理事にも相談させていただきながら新たな物件を探していく。</p> <p>④ ワーキンググループによる組織基盤の強化</p> <p>2020年度からはコロナ禍の影響もあり理事会などはすべてオンラインで開催した。</p> <p>2023年度は、以下の担当でCODEの事業を進めていく。</p> <p>* CODE ワーキンググループの役割と担当</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイドライン: 棚木理事、山口理事 2. 人材育成: 宮本副代表理事、堀之内理事 3. 資金調達: 冬頭理事、西田理事 4. 広 報: 堀之内理事、西海理事 5. 支援プログラム: 災害発生後、その都度開催 <p>* 室崎代表理事、村井理事は全部門に参加 (2022年度末時点)</p>
--	---

【8. その他本会の目的達成の為に必要な事業】

事業名	8-(1) CODE・AID および認定NPO法人について
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	2011年度の理事会での議論を経て、CODE AID の設立をめざしてきた。また、2019年度より認定NPO法人取得に向けて今中一壽税理士のご協力をいただき、取得団体、神戸市の担当部局、認定取得相談窓口団体(市民活動センター神戸)などへ訪問、ヒアリングを行ってきたが、理事会での「長期事業計画を立てて将来的には認定を目指すべき」という指摘を踏まえつつ、事務局の負担などを鑑みて新たな申請に関しては少し様子を見ることとなった。